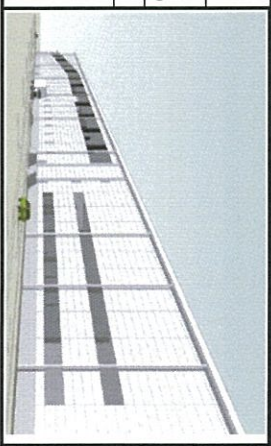


CASBEE[®]-建築(新築)

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築評価システム, CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	本田技研工業(株)埼玉製作所寄居工場	階数	地上4F
建設地	埼玉県大里郡寄居町	構造	S造
用途地域	工業専用地域、法22条区域	平均居住人員	1,000 人
地域区分		年間使用時間	4,165 時間/年(想定値)
建物用途	事務所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年7月 予定	評価の実施日	2019年2月28日
敷地面積	780,551 m ²	作成者	株式会社石本建築事務所
建築面積	25,018 m ²	確認日	2019年2月28日
延床面積	54,833 m ²	確認者	株式会社石本建築事務所
			

2-1 建築物の環境効率率(BEE)ラジアン&キャラクター **2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響)キャラクター** **2-3 大項目の評価(レーダーチャート)**

BEE = 1.9 ★★★★★ A:★★★★★ B:★★★★★ B:★★★★★ C:★★

標準計算
 30%:☆☆☆☆☆ 60%:☆☆☆☆☆ 90%:☆☆☆☆☆ 100%:☆☆☆☆☆ 100%超:☆☆☆☆☆

①参照値
 ②建築物の取組み
 ③上記+②以外の
 ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

92 (Kg-CO₂/年・m²)

46

100%
76%
76%
76%

Q1 室内環境
Q2 サービエ性能
Q3 室外環境(敷地内)

LR1 エネルギー
LR2 資源・マテリアル
LR3 敷地外環境

Q2のスコア = 3.3

Q3のスコア = 3.6

LRのスコア = 3.7



2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.2

音環境	3.0	温熱環境	3.3	光環境	3.6	空気環境	3.0
-----	-----	------	-----	-----	-----	------	-----

Q2 サービエ性能 Q2のスコア = 3.0

1	2	3	4	5	
機械性	2.4	耐用性	3.2	対応性	3.7

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 3.6

1	2	3	4	5	
生物環境	3.0	まちなみ	3.0	地域性	3.0

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.3

1	2	3	4	5	
建物外皮の自然エネ	5.0	設備の省エネ	4.0	効率的	3.5

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.2

1	2	3	4	5	
水資源	3.4	非再生材料の	3.2	汚染物質	3.0

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.5

1	2	3	4	5	
地球温暖化	3.9	地域環境	3.3	周辺環境	3.4

3 設計上の配慮事項

3.1 設計上の配慮事項

周囲に緑豊かな山が広がる敷地の特性を活かして建設された環境配慮型の工場である。新棟はこの工場全体のコンセプトを継承して計画した。

Q1 室内環境

事務室は自然採光が可能な窓を設け、明るく快適な空間とした。屋上に自然換気口を設置し、事務室の自然換気を行える計画とした。

Q2 サービエ性能

事務室は十分な高さの天井高を確保した。外装は、鳥害対策や鉄部の防錆対策を行った。

Q3 室外環境(敷地内)

敷地内にビオトープを配置し、適切に管理することで、多様な生物の生息、生息環境を提供した。

LR1 エネルギー

外壁に断熱パネルを用いることで、外皮の熱負荷を抑制した。風圧で開閉できる自然換気窓を設け、温度差による重力換気が効果的に見える自然通風システムを採用した。

LR2 資源・マテリアル

リサイクル建材の採用、節水型衛生器具の採用を行った。

LR3 敷地外環境

雨水貯留槽を設け、建物からの雨水流出抑制対策を実施するとともに、雨水の中水利用を行った。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用・改修・解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除いた年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE 建築(新築)2016年版、CAS

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル、CASBEE-建築(新築)2016年版、C
CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
配慮項目				環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q1 建築物の環境品質										3.3
Q1 室内環境										3.2
1 音環境						3.0	0.32		-	3.0
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.15		-	
1.2 遮音						3.0	0.40		-	
1 開口部遮音性能						3.0	0.40		-	
2 界壁遮音性能						3.0	0.60		-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0	0.40		-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	-		-	
1.3 吸音						3.0	0.20		-	
2 温熱環境						3.3	0.35		-	3.3
2.1 室温制御						3.2	0.50		-	
1 室温						3.0	0.38		-	
2 外皮性能						4.0	0.25		-	
3 ソーラ別制御性						3.0	0.38		-	
2.2 湿度制御						1.0	0.20		-	
2.3 空調方式						5.0	0.20		-	
3 光・視環境						3.6	0.25		-	3.6
3.1 昼光利用						3.0	0.30		-	
1 昼光率						3.0	0.60		-	
2 方位別開口						3.0	-		-	
3 昼光利用設備						3.0	0.40		-	
3.2 クリア対策						3.0	0.30		-	
1 昼光制御						3.0	0.30		-	
3.3 照度						3.0	1.00		-	
3.4 照明制御						4.0	0.15		-	
4 空気質環境						5.0	0.25		-	3.0
4.1 発生源対策						3.0	0.50		-	
1 化学汚染物質						3.0	1.00		-	
4.2 換気						3.0	0.30		-	
1 換気量						3.0	0.33		-	
2 自然換気性能						3.0	0.33		-	
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.33		-	
4.3 運用管理						3.0	0.20		-	
1 CO ₂ の監視						3.0	0.50		-	
2 喫煙の制御						3.0	0.50		-	
Q2 サービス性能						-	0.30		-	3.0
1 機能性						2.4	0.40		-	2.4
1.1 機能性・使いやすさ						1.6	0.40		-	
1 広さ・収納性						1.0	0.33		-	
2 高度情報通信設備対応						1.0	0.33		-	
3 バリアフリー計画						3.0	0.33		-	
1.2 心理性・快適性						3.0	0.30		-	
1 広さ感・景観						5.0	0.33		-	
2 リフレッシュスペース						3.0	0.33		-	
3 内装計画						1.0	0.33		-	
1.3 維持管理						3.0	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計						3.0	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保						3.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性						3.2	0.30		-	3.2
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50		-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80		-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.0	0.30		-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						3.0	0.20		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.10		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔						3.0	0.20		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20		-	
2.4 信頼性						4.0	0.20		-	
1 空調・換気設備						3.0	0.20		-	
2 給排水・衛生設備						4.0	0.20		-	
3 電気設備						4.0	0.20		-	
4 機械・配管支持方法						4.0	0.20		-	
5 通信・情報設備						5.0	0.20		-	
雨水再利用設備を設置した。 非常用発電設備を備え、電源設備を1階に設置した。 耐震クラスA以上とした。 有線電話を備え、精密機器は1階以上に設置した。						3.0	0.20		-	
						3.0	0.20		-	

3 対応性・更新性	3.1 空間のゆとり	事務室の階高は5.5mを確保した。 耐震壁の位置を最小限とし、空間の自由度の高い計画とした。	5.0	0.30	-	3.7
			5.0	0.60	-	5.0
3 対応性・更新性	3.2 荷重のゆとり	主たるエリアはカーブラルラック露出配線とした。 主たるエリアはカーブラルラック露出配線とした。	5.0	0.40	-	5.0
			3.0	0.30	-	3.0
			3.4	0.40	-	3.4
			3.0	0.20	-	3.0
			3.0	0.10	-	3.0
			5.0	0.10	-	5.0
			3.0	0.20	-	3.0
			3.0	0.20	-	3.0
			3.0	0.20	-	3.0
			3.0	0.20	-	3.0
Q3 室外環境(敷地内)	1 生物環境の保全と創出	敷地内にビオトープを配置し多様な生物の生息・生育環境を提供した	5.0	0.30	-	5.0
			3.0	0.40	-	3.0
3 地域性・ファシリティへの配慮	3.1 地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.30	-	3.0
			3.0	0.50	-	3.0
			3.0	0.50	-	3.0
LR 建築物の環境負荷低減性	LR1 エネルギー	BPlm=0.77 ✓ 自然通風システムを採用した。 [BEI][BEIm]= 062	-	0.40	-	3.7
			5.0	0.04	-	5.0
LR1 エネルギー	1 建物外皮の熱負荷抑制		4.0	0.12	-	4.0
			4.8	0.60	-	4.8
			3.5	0.24	-	3.5
4 効率的運用	集合住宅以外の評価	電力・給水の計量計測によるモニタリングを行っている。	3.5	1.00	-	3.5
			4.0	0.50	-	4.0
			3.0	0.50	-	3.0
			3.0	0.50	-	3.0
LR2 資源・エネルギー	1 水資源保護	雨水の中水利用を行える計画とした。	3.4	0.20	-	3.4
			3.0	0.40	-	3.0
			3.7	0.60	-	3.7
			4.0	0.70	-	4.0
2 非再生性資源の使用量削減	2.1 材料使用量の削減	-	3.0	0.80	-	3.0
			3.2	0.60	-	3.2
			3.0	0.11	-	3.0
			3.0	0.22	-	3.0
			3.0	0.22	-	3.0
3 汚染物質含有材料の使用回避	3.1 有害物質を含まない材料の使用	PS/EPSには点検口を設置した。	4.0	0.22	-	4.0
			3.0	0.20	-	3.0
			3.0	0.30	-	3.0
LR3 敷地外環境	1 地球温暖化への配慮	ライオサイクルCO2が一般的な建物(参照値)に対して24%削減	3.9	0.33	-	3.9
			3.3	0.33	-	3.3
			3.3	0.33	-	3.3
3 周辺環境への配慮	3.1 騒音・振動・悪臭の防止	調整地による雨水流出抑制を行っている。 廃水処理場は化成系と工程系を分けて処理している。 十分な数の駐車・駐輪台数を確保している。 廃棄物の分別、再利用をおこなっている。	3.0	0.25	-	3.0
			3.0	0.50	-	3.0
			4.5	0.25	-	4.5
			4.0	0.25	-	4.0
			4.0	0.25	-	4.0
			5.0	0.25	-	5.0
			5.0	0.25	-	5.0
			3.4	0.33	-	3.4
			3.6	0.40	-	3.6
			3.0	0.33	-	3.0
			5.0	0.33	-	5.0
			3.0	0.33	-	3.0
			3.0	0.40	-	3.0
			3.0	0.70	-	3.0
3.0	0.30	-	3.0			
3.7	0.20	-	3.7			
4.0	0.70	-	4.0			
3.0	0.30	-	3.0			
3.3 光害の抑制	1 屋内照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告物照明を行わず、照明範囲を必要以上に広くしていない。	3.0	0.30	-	3.0
			4.0	0.70	-	4.0
			3.0	0.30	-	3.0
2 風光の景物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	3.0
			3.0	0.30	-	3.0
			3.0	0.30	-	3.0

CASBEE埼玉県 重点項目シート

■使用評価ソフトウェア

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要			
建物名称	本荘県庁工務局(埼玉県庁)新庁舎建設工事 (仮称)グリーンビル新築建築計画工事	BEE	1.9
		BEEランク	★★★★★

2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア	緑の保全・創出のスコア				
3.9	+	3.6	=	7.5	
重点項目の各スコアの合計点					
かんばろう 6.0未満	良い 6.0以上	非常によい 6.8以上	すばらしい 8.0以上		

3 重点項目についての環境配慮概要

(1) ライフサイクルCO2の削減

スコア平均 3.9

<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>

LR3 敷地外環境対策

1. 地球温暖化への配慮

スコア 3.9

<配慮した内容を記述>

屋上に風圧で閉閉できる自然換気窓を設定し、温度差による重力換気が効果的に行える自然通風システムを採用した。

(2) 緑の保全・創出

スコア平均 3.6

<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>

Q3 室外環境(敷地内)

1. 生物環境の保全と創出

スコア 5.0

Q3 室外環境(敷地内)

3. 2 敷地内温熱環境の向上

スコア 3.0

LR3 敷地外環境

2. 2 温熱環境悪化の改善

スコア 3.0

<配慮した内容を記述>

敷地内にビオトープを配置し、適切に管理することで、多様な生物の生息・生育環境を提供した。

: 入力欄